

各地の震度

各地の震度と発生メカニズム

東日本大震災が発生した三陸沖は、大小の地震が数多く発生する「地震の巣」と考えられている。周期的に地震が発生しており、今回の地震は宮城県沖地震（1978）の再来ともいわれている。東海地震と同じ海溝型地震で、複数の震源域が連動したことで幅約200^{km}、長さ約500^{km}の範囲を震源とする巨大地震になった。政府の阿部勝征地震調査委員長は1,000年に1回の巨大地震と発言した。



1_津波で家屋が流され、残骸が集積してしまった
 2_自宅跡地を訪れる住民 3_津波の威力で街中に船が打ち上げられた 4_地震と津波の威力で壊れた堤防
 写真提供/御前崎市消防本部、吉田町



り、近くに国道が通っています。その国道付近まで津波が押し寄せてきたのを見ました。一瞬でまちが消えた。自分の目に映っている状況が信じられませんでした。本当に恐ろしかった」と直後の様子を振り返る。

自宅へ帰れるのはいつだろう…

山田さんの住んでいた浪江町は、現在も事態が終息しない福島第一原子力発電所から直線距離にして約8^{km}の場所にある。警戒区域に指定された町だ。山田さんは避難指示を受け福島県内を転々。その後、妻枝美さんの妹で木塚二二江さん（白浜区）を頼って本市へ避難してきた。「生活の基盤を全て置いてきてしまいました。野菜を作っていたハウスも3月11日のまま。収入がゼロになってしまいました。どこへ避難しようにも、車の燃料がなくて苦労しました。朝3時ころから給油所の前で給油待ちをし



市防災課 高畑 実 課長
 市防災担当課長。市防災体制の整備を図る。

ました。一体いつになれば帰宅できるんだろう。息子家族ともずっと離れ離れだけではつらいです。地震と津波だけであれば復興に時間は掛からないと思いますが、放射能という見えない敵が相手となると簡単にはいかないでしょう。帰宅できても恐怖に怯える生活を送らなくてはなりません」と不安な心境を語った。

市防災課の高畑実課長は、今回の地震を振り返り「想定される東海地震の揺れは同規模。津波でもかなり被害を受けるだろう。自然の猛威は計り知れない。自助・共助の重要性が高まっている」と分析する。